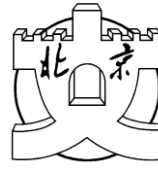


かささぎ



北京日本人学校
学校通信第4号
令和元年7月17日
校長 栗本 和明

「自然災害の国」日本で生きる ～自分の命を自分で守れる子どもに～

北京日本人学校 校長 栗本 和明

本校では毎年1学期に「地震が発生し、その後校内で火災が発生した」という想定で避難訓練を行っています。今は北京で生活している子どもたちですが、今後日本に帰り、日本で生活することになるでしょう。日本は自然災害がとても多い国です。日本ではどこに住んでいても地震が発生します。場所によっては火山もあります。海や大きな河川が近い場所では、津波発生危険性もあります。ここ数年では、ゲリラ豪雨や長時間続く大雨で土砂災害や水害が発生し、大きな被害があらこちらで起きています。

日本の小・中学校では、その土地その場所に応じて、地震発生時に起こるであろう危険や身を守る方法、その後の津波発生への対応などを学び、実際に訓練を重ねます。水害や火山噴火などに対する事前学習も熱心に行っています。地域と一体となった訓練や、保護者と共に行う訓練を継続して行っている学校も多くあります。日本の学校に通う子どもたちは、次のような事態に「どのように行動するとよいのか」を知識として理解し、訓練で身につけようとしています。

緊急地震速報を聞いたらどのように行動するのか。

津波警報が出たらどこに逃げるか。

登下校中に地震が起きたらどうやって身を守り、その後どこに向かうのか。

市内を歩いている時や地下鉄に乗っている時に地震が起きたらどうするか。

大雨が続いて近くの河川の水位が一定以上になったらどう避難するか。 など

また、保護者も、子どもを守るためにどうするのかを日々考えます。

子どもが在校中に「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたらどうするか。

子どもが在校中に大きな地震が発生したらどうするか。

大雨が続き近くの河川の水位が危険域に達したら家族はどこに避難するのか。 など

1学期の避難訓練の時、全員が無事避難を終え安否確認ができた後、校長より「緊急地震速報」のチャイム音とアナウンスを子どもたちに聞かせました。その後担任より「日本では（上記のように）自分たちの暮らす地域ごとに必要な訓練を行っている」という事後指導を行いました。すると

地震速報のことを初めて知った。

緊急地震速報のチャイム音を初めて聞いた。

という子どもがいることが分かりました。中国での生活が長かったり、日本で、たまたまそのような訓練の機会がなかったりしたのでしょうか。

北京に暮らしていると「中国は地震が少ない」「北京市では大きな地震は何百年間も発生していない」といった話を聞くことがあります。広い平野なので土砂災害が起こることも考えにくいですが、日本に住んでいる時よりも、地震をはじめ、自然災害に備える、という危機意識が薄れてしまうのが現実ではないのでしょうか。上記のような本校の子どもたちの実態に寄り添い、将来、「自然災害の国」日本で生きるために、自分の身を自分で守れる子どもたちを育てていくことの大切さを改めて感じました。いつ何時、どんな状況でも子どもが自分自身で判断し行動できるよう、学校での訓練の在り方や指導内容を再度見直そうと思います。

夏休みが始まります。自然災害に備えるための「家族での約束（家族がそれぞれ違う場所にいる時に災害が起こったらどこに集合するのか、など）」を確認すること。街を歩きながら「今、地震が起きたらどうやって身を守る？」と子どもに問いかけて考えさせる。そのような機会を、家族で是非もってほしいと思います。

第41回運動会

小中連携部

今年度の運動会は9月7日（土）に開催する予定です。今年度のスローガンは、

ズキゅん♡♡♡ ~ハートを射抜く準備はいいか~

意味：

私たち全員の「ハートに刻まれる」「心に残る」運動会になってほしいという思いと、保護者や先生も含めて、演技を見てくれた人全員が感動するようなものにしたいという思いが込められています。

（生徒会のスローガン発表より）

北京日本人学校の運動会は、たてわり班毎に赤白の2つの団に分かれて行われます。全校で取り組む応援合戦やはちのこジャンピオン、各学年部で工夫を凝らした団体競技や親子競技…もう既に、本番に向けて練習は始まっています。毎年、運動会に向けた取組の中で、児童生徒はいろいろな経験をし、たくさんの感情を抱き、大きく成長していきます。上手くいくことばかりではありませんが、結果にはこだわらず。勝ち負けを超えた成長を目的に頑張る姿を、是非応援してください。



7月3日 団結式でのスローガン発表



3年生のニュース

小学部3年生

小学部3年生の子どもたちは、カイコとともに過ごした1学期でした。飼い始めの頃は恐る恐る飼育箱を覗いていた子どもたちも、世話をするうちに愛着がわき、休日を持ち帰る姿が見られるほどでした。同時に毎日人が桑の葉を与えなければ生き続けられないということを知り、飼育の大変さも実感していました。また、飼育の中から生まれた疑問や詳しく知りたいことをインターネットや本で調べ、飼育経験で分かったことと併せて本や資料にまとめ、小学部他学年に発信しました。子どもたちのカイコに対する思いが他の学年にも伝わることを願っています。

ただいま何人？

小学部 令和元年7月17日現在

	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1-1	9	8	17	4-1	7	11	18
1-2	9	9	18	4-2	9	11	20
1-3	9	8	17	5-1	17	9	26
2-1	11	10	21	5-2	15	11	26
2-2	11	12	23	6-1	10	6	16
3-1	9	10	19	6-2	10	6	16
3-2	8	11	19	小総計	134	122	256

中学部

1-1	8	7	15	3-1	14	8	22
1-2	8	7	15	中総計	39	34	73
2-1	9	12	21	総合計	173	156	329

